



横浜市立城郷小学校
明治33年6月創立

学校だより

めざす子ども像

令和4年1月7日

1月号



ともに学び、よりよい生き方を見つけ出す しろさとっ子

◆学校だよりはホームページにも掲載されています。右のQRコードからもご覧になれます◆

支え合い



こうちょう さんべい あつし
校長 三瓶 淳

寒風吹きすさぶ中、校庭で元気にボールを追いかけるサッカークラブの子どもたちの声が聞こえてきます。校舎内は子どもたちがいないととても冷え切っていて、寂しく感じるものです。子どもたちは、年が改まる節目でどんな夢や希望をもって登校してくるかとても楽しみです。保護者、地域の皆様、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、一昨年はコロナ禍のため年末年始の帰省を断念したのですが、去年は2年ぶりに実家で年越しをしました。福島市内も久しぶりに40cmを超える積雪があり、東北道を降りたとたんの凸凹した轍をどきどきしながら運転しました。今年は断捨離をすと母に宣言し、二日間かけて台所や冷蔵庫内を片付けました。その間、認知症を患っている父の世話もしました。ここまで両親に触れ合いながら、話をしたのは久しぶりのことです。親元を飛び出して横浜に就職し、ここまで働けていることに感謝するとともに、両親の支え合いを目の当たりにし、私が今出来ることを両親に返さなければと思いました。

ところで、認知症の父の世話をしながら体感したことがあります。次第に息子である私をも忘れ始め、耳が遠くなったため会話も成立しないことが増えてきています。機嫌がよい時とわがままを言う時があるため、言葉かけや触れ方を工夫しなければなりません。冷たい手で着替えを介助しようとしたら「触るな！」と手を払いのけられてしまいました。とても悲しい思いをしましたが、手をお湯等で温めてから介助すると「どうもありがとう。」と何度もお礼を言われました。息子がやっているとは思ってないのでしょうか。会話が成立しなくても相手の機嫌に合わせるような言動をとれば、伝わることも多くあるのかと思います。もちろん、触ったり、食べたり、危険なことをしようとした時は、叱責すべきなのかも知れません。自分の親だから出来たこともあるのですが、今後の生活に活かしていきたいと思いました。

オミクロン株が主流となったコロナ禍の不安をぬぐい去ることはできない年明けですが、今までどおりの感染症予防策をとりながら、今後の学校行事の可否を判断し、できるだけ早めに連絡していきたいと思っております。メール配信や学校ホームページにご注目いただければと思います。

～学校安全研修のお知らせ～

児童の安全な学習に関わる研修を定期的に行っています。既に理科実験に伴う安全配慮や校庭体育時の熱中症とマスク着脱などに関する研修は済んでいます。体育館体育時の安全面に関わる研修を1月に行います。